

問 認知症患者の徘徊について、今一度問題点を洗い出し、さらなる対応が必要ではないか。

答 市民の理解を深め、高齢者が安心して暮らせるよう地域で見守る体制づくりに努める。



栗山尚記議員

問 外国人労働者について、激化する人材確保競争へ乗り遅れないため、日本語学校経営への参画や受入れ環境整備など、思い切った戦略の旗振り役が行政に求められていると思うが市の考えは。

答 外国人労働者について、商工会では受入れに関する調査研究を予定していることに加え、国際交流協会では日本での生活をサポートする相談窓口を本格運用していくこと

にしている。市としても環境整備に向け、関係団体と連携して必要な支援策を検討する。
花輪線路線維持・利用促進について

問 本年秋には地域公共交通の再編関連法が施行される。花輪線の廃線を阻止し、効果的な利用促進策を即急に展開する必要があるのではないか。

答 花輪線利用促進協議会では、沿線市から募集したアイデアを基に利用促進事業を取りまとめることとしており、路線維持と利用促進に向けた共通認識のもとで実行可能なものから速やかに実施する方向で調整を進めている。

質問した項目

- 高齢者福祉について
- アフターコロナにおける市民生活について
- 生産年齢人口の確保について
- 花輪線路線維持・利用促進について
- 学校教育環境について



録画配信はこちらから

栗山 尚記 議員（鹿真会・公明）
質問時間 60分

問 選挙での共通投票所の投票従事者と立会人を民間団体に委託できないか。

答 公平性を担保するため民間団体等への外部委託は考えていないが、他の事例などを検証しながら、適正な事務体制を確保する。



成田哲男議員

問 二次医療圏の見直しで、現在の8医療圏から3医療圏へ変更となるメリット、デメリットは。

答 県では、国の見直しの状況などを勘案し、県北、県央、県南の二次医療圏とすることで計画を策定する予定である。これにより各医療圏では専門的な高度医療への対応や、効率的な医療提供体制の確保に加え、受けられる医療の選択肢が広がる

ことが期待される。一方で、広域的な連携を図るための医療のデジタル化対応が課題であるとされている。本市は医療体制の確保のため、県外の医療機関と連携しており、再編に当たって青森、岩手両県との調整と連携を要望している。

問 中学校の運動部活動の地域移行について

答 今年度中に方向性を確認し、次年度以降、準備が整った部活動から移行する予定としているが、指導者や保護者負担など多くの課題があるため、関係機関等との協議検討を重ねていく。



録画配信はこちらから

成田 哲男 議員（誠心会）
質問時間 30分

質問した項目

- 二次医療圏の広域化について
- 新型コロナウイルスの5類への引き下げについて
- 選挙での投票率向上について
- 中学校の運動部活動の地域移行について